



SIOS DataKeeper Cluster Edition

v8.6.2

リリースノート

2018年9月

このドキュメントおよびその内容は SIOS Technology Corp. (旧称 SteelEye® Technology, Inc.) の所有物であり、いかなる無許可での使用および複製も禁じます。SIOS Technology Corp. はこのドキュメントの内容に関していかなる保証も行いません。また、事前の通知なくこの出版物を改訂し、本書に記載された製品に変更を加える権利を保有しています。最新のテクノロジー、コンポーネント、およびソフトウェアを使用して製品を改善するのが SIOS Technology Corp. の方針です。そのため、SIOS Technology Corp. は事前の通知なく仕様を変更する権利を保有しています。

LifeKeeper、SteelEye、および SteelEye DataKeeper は SIOS Technology Corp. の登録商標です。

本書で使用されるその他のブランド名および製品名は識別のみを目的としており、各社の商標である場合があります。

出版物の品質を維持するために、このドキュメントの正確さ、わかりやすさ、構成、および価値に関するお客様のご意見をお寄せください。

宛先:

ip@us.sios.com

Copyright © 2018

By SIOS Technology Corp.

San Mateo, CA U.S.A.

All rights reserved

目次

SIOS DataKeeper Cluster Edition	1
はじめに	1
SIOS DataKeeper Cluster Edition v8 の新機能	1
.....	3
バグの修正	3
.....	3
製品定義とプラットフォーム	4
製品要件	4
ローカルセキュリティポリシーの要件	5
既知の問題	5
Windows 2016	5
SCVMM 2012	5
Windows Server 2012	5
DataKeeper Cluster Edition クイックスタートガイド	6

SIOS DataKeeper Cluster Edition

リリースノート

バージョン 8.6.2

(Version 8 Update 6 Maintenance 2)

重要!!

本製品をインストールまたは使用する前に、必ずこのドキュメントをお読みください!
このドキュメントには、インストール時とその前後に留意すべき重要な項目に関する情報が記載されています。

はじめに

SIOS DataKeeper Cluster Edition は最適化されたホストベースのレプリケーションソリューションとして Windows Server 2012、Windows Server 2012 R2、および Windows Server 2008 R2/2008 R2 SP1 Failover Clustering とシームレスに連携します。Windows Server Failover Clustering の機能である、サブネットを経由したフェイルオーバーや調整可能ハートビートパラメータにより、管理者が地理的に分散したクラスタを管理するのが容易になります。SIOS DataKeeper は、両方のバージョンの Windows Clustering を拡張するデータレプリケーション機能により、共有されないディスクの高可用性構成をサポートします。

SIOS DataKeeper Cluster Edition をインストールすると、DataKeeper ボリュームと呼ばれる新しいストレージクラスリソースタイプを使用できるようになります。この新しい SIOS DataKeeper ボリュームリソースを従来の物理ディスクの共有ストレージリソースの代わりに使用することで、マルチサイトクラスタとも呼ばれる地理的に分散したクラスタが可能になります。

SIOS DataKeeper Cluster Edition v8 の新機能

機能	説明
本リリース (8.6.2) の新機能	
SIOS iQとの統合	SIOS iQ にイベントを配信する DataKeeper Signal パッケージを追加しました。
全体的なメンテナンス	バグ修正
バージョン 8.6.1 の新機能	
Microsoft SQL Server 2017 のサポート	DataKeeper は Microsoft SQL Server 2017 をサポートします。
バージョン 8.6 の新機能	

機能	説明
チューニング可能な書き込みキューのバイト制限	ユーザーは、 WriteQueueByteLimitMB のレジストリ値を変更することにより、ミラーの書き込みキューに割り当て可能な最大バイト数を指定できます。
全体的なメンテナンス	バグ修正
バージョン 8.5.1 の新機能	
Windows 2016 のサポート	DataKeeper は Windows 2016 をサポートします。
VSS プロバイダー	デフォルトでは SIOS VSS プロバイダーは無効になっています。
全体的なメンテナンス	バグ修正
バージョン 8.5 の新機能	
CHANGEMIRRORTYPE	この EMCMD コマンドを使用して、DataKeeper ジョブの一部であるミラーのミラータイプを変更します。
Microsoft SQL Server 2016 のサポート	DataKeeper は Windows SQL Server 2016 をサポートします。
ビットマップブロックサイズを変更可能	ユーザーは、BitmapBytesPerBlock レジストリの値を変更して、DataKeeper インテントログ(ビットマップ)のエントリーの実効サイズを変更できます。
全体的なメンテナンス	バグ修正
バージョン 8.4 の新機能	
DataKeeper Volume Resource Health Check	DataKeeper ボリュームリソースヘルスチェックが、元のボリュームへの到達可否を決定するようになりました。
ターゲットビットマップファイル	ターゲットの書き込みがビットマップファイルで追跡されるようになりました。
全体的なメンテナンス	バグ修正
バージョン 8.3 の新機能	
DataKeeper の通知アイコン	DataKeeper の通知アイコンは、Windows の通知トレイで DataKeeper ミラーのサマリを表示します。また、DataKeeper ミラー管理のショートカットとして、使用可能です。
mirrorcleanup.cmd	このコマンドは、ローカルシステム上のみで、選択されたボリュームの残りすべてのミラーを削除します。SIOS サポートによって推奨された場合のみ実行してください。
Powershell cmdlet サポート	ジョブの作成、ミラーの作成、ジョブの削除、ミラーの削除、または DataKeeper (New-DataKeeperMirror、New-DataKeeperJob、Remove-DataKeeperMirror、Remove-DataKeeperJob、Add-DataKeeperJobPair、Get-DataKeeperVolumeInfo) で使用されるボリュームについての情報を取得するのに Powershell cmdlet が使用可能になりました。
DKHEALTHCHECK	ステータスと問題の識別ツールをサポートしました。基本のミラーステータスと問題検知のためのコマンドラインインターフェースを提供します。
全体的なメンテナンス	バグ修正
バージョン 8.2.1 の新機能	

機能	説明
全体的なメンテナンス	バグ修正
バージョン8.2の新機能	
DataKeeper 非ミラーリングボリューム・クラスタリソース	DataKeeper 非ミラーリングボリューム・クラスタリソースでは、ユーザーは、フェイルオーバークラスタのローカルボリュームをミラーの一部とすることなく使用することができます。本機能の一般的な使用例としては、既存のハードウェア上で OS のローリング・クラスタ・アップグレードを実現したり、tempdb を SQL 2008 R2 クラスタ、および、より古いバージョンのローカルストレージに移動させることも可能です。
全体的なメンテナンス	バグ修正
バージョン 8.1 の新機能	
全体的なメンテナンス	バグ修正
バージョン 8.0.1 の新機能	
全体的なメンテナンス	バグ修正
バージョン 8.0 の新機能	
クラスタ外ノードへのレプリケーション	DataKeeper はフェイルオーバークラスタの外側にレプリケーションターゲットを置くことができます。
オペレーティングシステムサポート	DataKeeper は Windows 2008R2 以降の 64 ビットオペレーティングシステムのみをサポートします。以前のバージョンの Windows または 32 ビットシステム上で実行するには、DataKeeper v7 を使用してください。
Windows 2012 R2 サポート	DataKeeper Windows 2012 R2 をサポートします。
全体的なメンテナンス	バグ修正

バグの修正

以下に、最新のバグの修正および機能強化のリストを示します。

バグ	説明
4274	高い IRQL でボリュームが読み込まれた際の ExtMirr BSOD を修正しました
4283	ターゲットノードがダウンしているソースノードを再起動すると DataKeeper ボリュームがオンラインになります
4287	DISPATCH_LEVEL で EmVolumeWrite の BSOD を修正しました
4289	無効な BitmapBaseDir が設定されたシステムでターゲットボリュームをロックしようとする場合の BSOD を修正しました

バグ	説明
4311	新しい DataKeeper のインストール中に、[未登録の VSS プロバイダー] のポップアップメッセージが表示されなくなりました
4312	スイッチオーバー中に新しいソースシステムで時折 サービスがクラッシュする問題を修正しました
4315	不適切にフォーマットされたレジストリ値を修正しました
4320	DataKeeper サービスが標準ハンドルに書き込まないようにしました
4321	「keep-alive packet」イベントログメッセージのレベルをエラーから情報に変更しました
4326	PagingFilesレジストリ値がない場合にDataKeeperがボリュームをコントロールできるようにしました
4334	ビットマップボリュームが失われたり間違っている場合に強制的に完全再同期を実行するようになりました
4355	パフォーマンス 모니터のカウンター名とHelpをすべてのロケール環境で英語を使用するようになりました

製品定義とプラットフォーム

製品要件

製品	オペレーティングシステム	追加ソフトウェア
サーバ コン ポーネ ント	DKCE サポートマトリックス を参照	Hotfix - KB 951308 http://support.microsoft.com/kb/951308 Hyper-V リソースを保護する場合 Hotfix KB 958065 http://support.microsoft.com/?id=958065 注記: これらの Hotfix は、Windows Server 2008 R2/2008 R2 SP1 には必要ありません。 Microsoft Hotfix KB 2741477 は、VM をフェイルオーバークラスターに配置した後に仮想マシンに NIC を追加できるようにします(詳細は「 Hyper-V ホストクラスタエラー 」を参照)。
	DKCE サポートマトリックス を参照	詳細は 以下 を参照してください。
	注記: ターゲットスナップショット機能を使用するには、Microsoft .NET Framework 3.5 SP1 をインストールする必要があります。 http://www.microsoft.com/net からダウンロードしてください。	
ユーザ イン ター フェース	DKCE サポートマトリックス を参照	MMC 3.0 - こちらからダウンロードしてください。 http://support.microsoft.com/kb/907265

注記: クラスタ内のすべてのサーバで同一バージョンのWindowsと同一バージョンのDataKeeperを実行してください。

SIOS DataKeeper Cluster Edition をインストールして設定する前に、以下の設定を確認してください。

- **重要:** DataKeeper を実行するすべてのサーバでローカル管理者権限を持ったドメインアカウントを使用することを推奨します。ローカルアカウントを使用している場合、ユーザ名およびパスワードは DataKeeper を実行するすべてのサーバで一致しなければなりません。これはすべてのエディションおよびすべてのプラットフォームに該当します。
- ファイル共有監視を設定してクォーラムモードマジョリティノードを変更するなど、Microsoftのベストプラクティスに従ってください。
- DataKeeperのフェイルオーバークラスタ登録は、各クラスタノードで起こる以下のイベントの60秒後に自動的に行われます。
 - o DataKeeper Cluster Editionのライセンスを、各クラスタノードにインストール。
 - o Windowsサーバのフェイルオーバークラスタ機能を、各サーバにインストール。
 - o Windowsサーバのクラスタ設定を作成。

ローカルセキュリティポリシーの要件

Windowsサーバがドメイン内でない場合で、DataKeeperサービスをローカルシステムアカウントとして実行する場合、ローカルセキュリティポリシー設定 **[ネットワークアクセス: Everyone アクセス許可を匿名ユーザーに適用する]** を有効にする必要があります。

既知の問題

Windows 2016

- [偶発的なジョブ作成の失敗](#)

SCVMM 2012

SCVMM 2012 で DataKeeper を使用する場合は、SCVMM 2012 SP1 を使用する必要があります。

Windows Server 2012

Windows Server 2012 に関連する問題および強化については、DataKeeper Cluster Edition テクニカルドキュメンテーションの「既知の問題」セクションの以下のトピックを参照してください。

- WSFC 2012 Failover Cluster Manager UI の欠陥
- WSFC 2012 の新しいファイルサーバタイプがサポートされない
- WSFC でのミラーの手動作成

- WSFC 2012 クラスタ作成 デフォルト設定の問題
- WSFC 2012 ファイル共有をファイルサーバリソースに対して作成できない
- WSFC 2012 Server Manager – 不正なボリューム表示
- WSFC 2012 Server Manager – DataKeeper「ディスク」がクラスタとして表示されない
- ミラー作成時に Windows Server 2012 デフォルト情報が見つからない
- Windows Server 2012 MMC スナップインクラッシュ
- Windows Server 2012 – クラスタ化された複数のファイルサーバの役割の同時移動が DataKeeper スイッチオーバーの失敗につながる場合がある
- Windows Server 2012 iSCSI ターゲットの役割がダイナミックディスクをサポートしない
- DataKeeper で iSCSI ターゲットを使用する

DataKeeper Cluster Edition クイックスタートガイド

SIOS DataKeeper Cluster Edition を利用するにあたって、DataKeeper Cluster Edition クイックスタートガイドを参照してください。